



教訓のりは歌

中

□ 9  
4456  
2



大のほん  
松風樓  
ぬし

た

多き花をよめて

くさくさ

鳥のうた

まき 早のうた

春がよし

人あはれなるし 春のうたは 友より 文あり ありまれば 志なき 且人の 準繩を 替はれしゆ ぬ  
ゆきく 春のうたは 友より 文あり ありまれば 志なき 且人の 準繩を 替はれしゆ ぬ  
らき 春のうたは 友より 文あり ありまれば 志なき 且人の 準繩を 替はれしゆ ぬ



れ

初 亦 有 子

例 拾 も あ ま

ま ぶ へ へ

連 續 も き ね

礼 義 ま り 顔



世の伴は小才覚やわたりていふ人ありて何事をもすじにわけてる公合せの傍り人  
個はありと奉れば盲者燈小執らむと歴々此は若れもゆかり出りてさう人あり  
思ふさうり者人乃因より見え何やどり却しき事ありん

申ノ

ろ

惣 休

ろ へ へ

夕 暮 相

あ ま

せ ろ へ

夕 暮 ね

け ろ へ



平日情なきつる又まきく意に海に釣橋をばりては古きも新にもいとくを  
ほまれにたりぬれども常に物事のねをくまひ人乃塔すまうれ月夜らどし



金銀財宝の幾方とて、幾方とて限る者ぞ人乃昔の屋し事ハ身おろるはぐと  
 かきり者ハ、はまれの限ある事ハ、りて限るは思ひぬはくさんハ、事ハ天理、  
 そむくは小鬼神のとが老少ハ、猶おろくは家も、れさも、是恐人ハ、



ら  
 悔もき  
 乱舞  
 杖真  
 楽  
 楽をすする  
 私の基ぞ

人ハ、喜怒哀樂乃情心思ハ、はう長し、誤ハ我身ハ、あつて人のい、さふ、  
 つまじや、殊文ハ、は、い、さ、あ、者も人の子ハ、さ、ハ、父母、思、こ、い、ら、さ、  
 乃、ま、あ、男、ハ、は、一、理、さ、れ、ハ、其、情、ハ、お、り、い、ら、り、て、情、心、ハ、の、心、專、り、ハ、



な  
 何不足  
 中  
 情  
 勢  
 勢ハ

む

今更事

無理な作

報

来

しごん

く

ど



自色が勝ちて非道なる世に天討ししむる事 眼をば

中ノ四

う

嘘を

うほき

うき

浮世の人

うき



かりそめの事にも嘘をいふをまはかする時 嘘をいふ人今と云ふ交際のづからすし  
まれば人の道ちがはしき上人をばいしとこなり事 虚しほきむべし

カ

いし事と

色しる

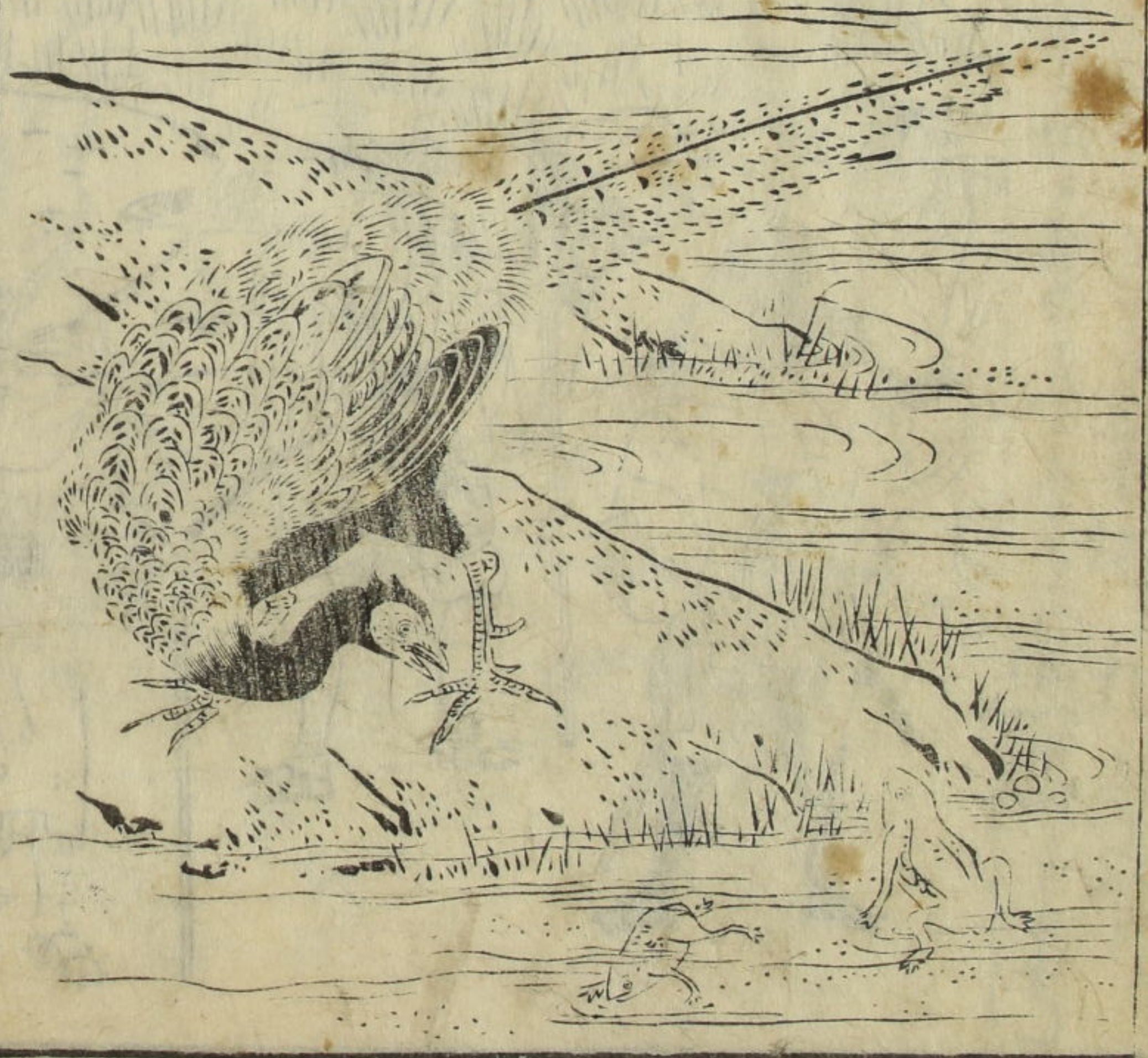
つよて

いしぬもの

いしぬかひま

いしぬか

しど



女の上子者といふは... 修初の手紙... 友人を... 寄る... 名は... 女子... 退く... せぬ... せよ... 人... 寄る

中ノ五

の

汗さび

のま字と

除き

春やいん

のよや

いん



隣わ... 指... 無事... 人... 犬... 寄る





わ

中りむれ

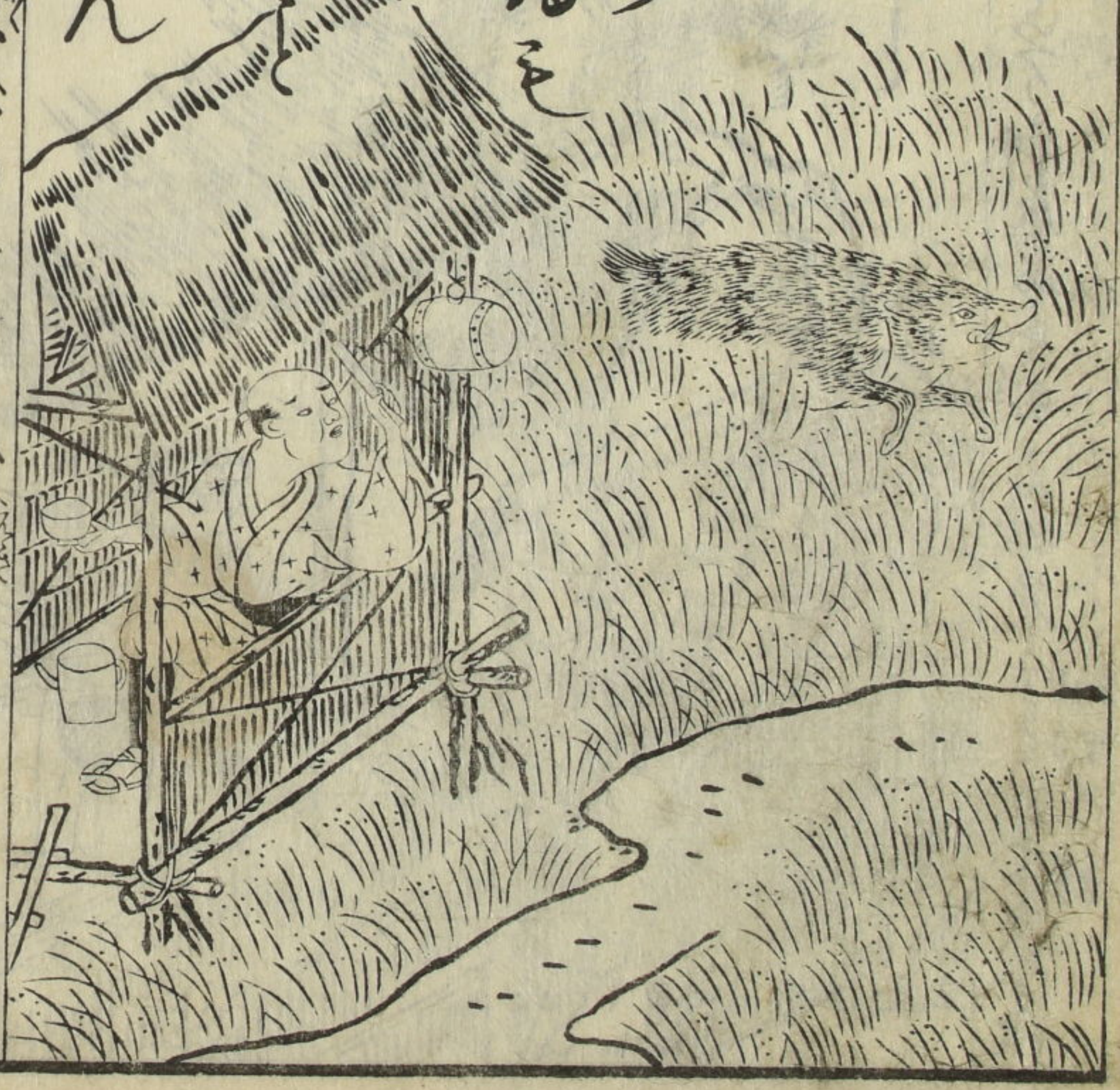
やはら

中りこま

益うそ

中りうそ

池の中は骨や手や足の皮や髪や爪や髪の毛や人の益はるらばるの毒の中は乃穀はせしうそはく習ひ性かたは幼少の時より中人はくそを事也



ま

真顔あや

はこ

中り

中り

間合せ

ま



報台はりて徳のひらるるも其の毒の幼少の時に成るるは毒不変の毒なりをうそよりうそに合はるるも人のうそよりと同一なりきや嘘をいふ毒の毒也





